



世界の都市めぐり

ジンバブエ共和国

Republic of Zimbabwe

↑ 蒼盤の目上に近代的なビルが立ち並ぶ首都ハラレ。9月～10月の開花時期には薄紫のジャラガンダの花がまちを埋め尽くすほどになる

ジンバブエ共和国は面積は39万km²と日本よりやや大きい、人口はおおよそ10分の1である。住民の7割以上がショナ族、そのほかンデベレ族が2割で白人は1%に過ぎない。北はザンビア、東はモザンビーク、南は南アフリカ、西はボツワナと国境を接するアフリカ南部の内陸国で、国土の半分以上が高地にあるため、年間を通じて比較的温暖で住みやすい。1980年に独立し、ムガベ首相が就任。その後1987年に大統領となり、以後4度の再選を経て現在に至っている。

↓ ジャラガンダの花

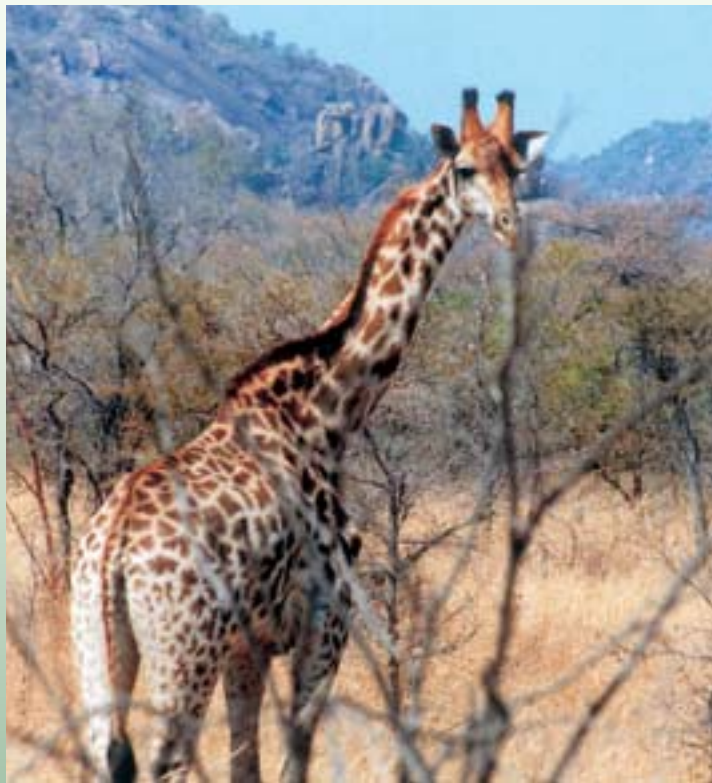




◀↑ザンビアとの国境に位置するビクトリアの滝。ナイアガラ、イグアスの滝と並び世界三大瀑布のひとつで幅1700m、落差118mに及ぶ



◀ボツワナとの国境に広がる国内最大のワング国立公園。



↑第2の都市ブラワヨ郊外にあるマトボ国立公園。白サイ、黒サイも生息している



↑11～15世紀頃栄えた王朝の石造建築「グレート・ジンバブエ」は、世界遺産のひとつに登録されている



← 盲目のストリートミュージシャン



↑ 首都ハラレの女子中高生

↓ 活気あふれる庶民の台所、首都郊外のムバレ・ムシカ・マーケット



↑ パオバブの実。多少渋みはあるが、程よい酸味が美味しい



←チャプング彫刻の村で、定期的に催されるシヨナ族のトラディショナルダンス



↑村の家々。「マッシュルूम・ハット」とも呼ばれている

2003年秋には、東京でアフリカ開発会議（TICAD）が開かれることから、アフリカ年とされている。それに連携して、もっと多くの人たちにアフリカを親しく感じてもらい、理解を深めてもらおうという目的で、5月17、18日に日比谷公園で「アフリカンフェスタ2003」が開催される予定である。

→農村地帯（ゴクエ地域）の子どもたち



写真・資料提供：(社)アフリカ協会